

志津学区

まちづくりプラン



令和3年3月
(令和8年3月改訂)
志津まちづくり協議会
草津市

・・・ 目 次 ・・・

1. まちづくりプランの位置づけ	1
2. 志津学区の状況	2
3. 志津学区のまちづくりの経緯	10
4. 志津学区の課題	11
5. 基本方針と施策メニュー	12
6. 推進計画の進行管理	14
7. 志津学区まちづくりプラン策定の体制・経過	15

1. まちづくりプランの位置づけ

(1) まちづくりプランとは

- ・草津市版地域再生計画で掲げた課題の解決や将来ビジョンの具現化に向けて、対象学区ごとに地元でのワークショップ等で検討した事項を反映させ、具体的に取り組む施策などを取りまとめた実行計画にあたります。
- ・実効性の高い計画とするために、短期（4～5年を目安）計画とし、施策の進捗管理を行いながら必要に応じて、見直しなども行いながら、確実に施策の推進を図っていくものです。

(2) まちづくりプランの位置づけ

- ・まちづくりプランの位置づけについては、図-1に示すように上位計画として、「総合計画」および「大津湖南都市計画区域マスタープラン」、「都市計画マスタープラン」があり、関連計画として「健幸都市基本計画」があります。
- ・これらの計画を踏まえながら、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりの実現に向けた「地域再生計画」「立地適正化計画」「地域公共交通網形成計画」の3つの計画が互いに連携して取組みを推進しています。
- ・まちづくりプランは、この中の草津市版地域再生計画の方針に基づき、その他の関連計画と連携しながら、具体的な実行計画を示すものです。

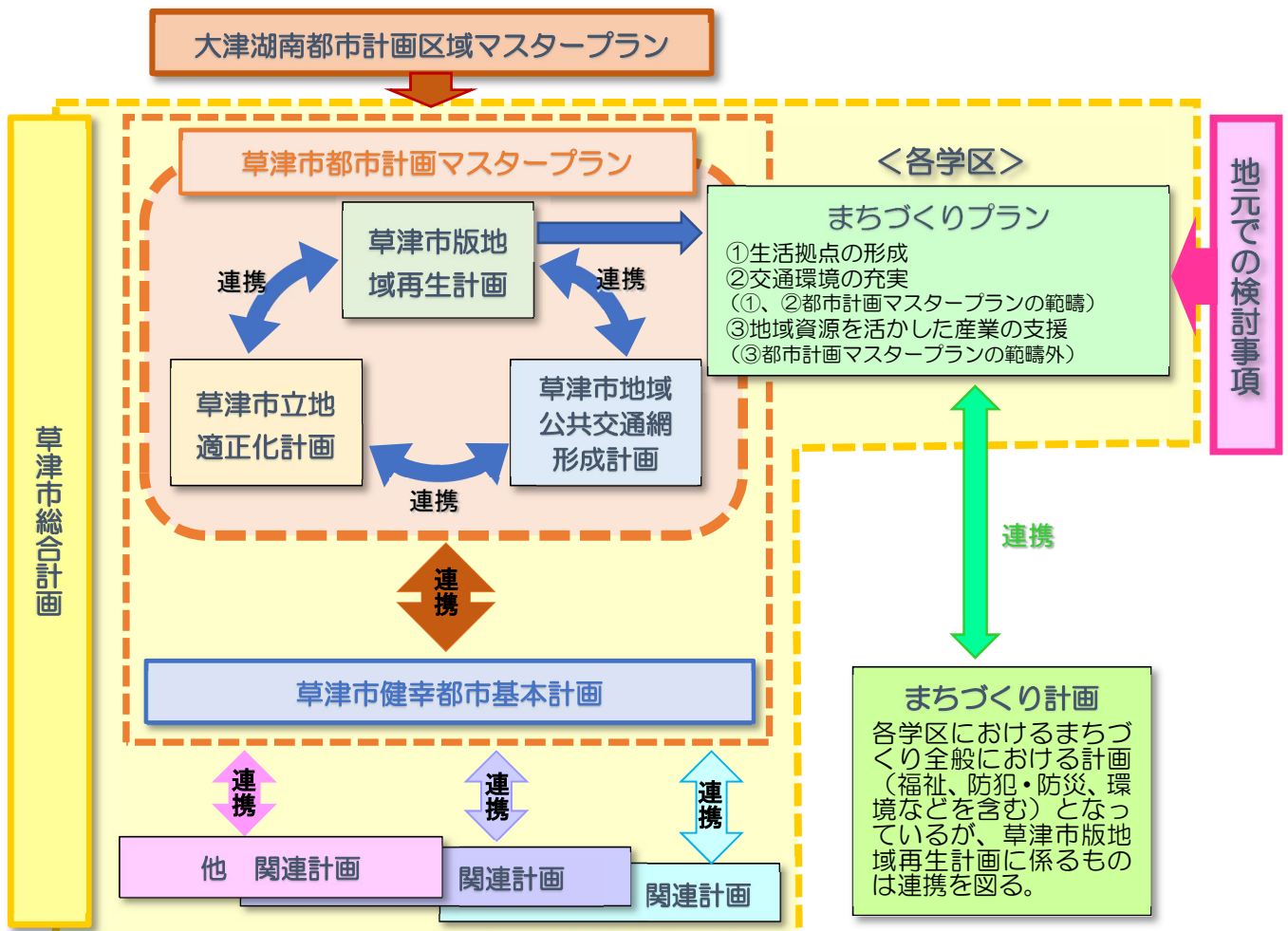


図-1. まちづくりプランの位置づけ

2. 志津学区の状況

(1) エリア・人口・高齢化等の状況

① エリア

・表-1 に示すように、志津学区は面積 750ha（市全体面積の約 15.6%）で、6 割以上が市街化調整区域となっています。図-2 は志津学区の位置を示しています。

表-1. 志津学区の面積割合（市街化区域と市街化調整区域）

	市街化区域		市街化調整区域		合計面積 (ha)
	面積 (ha)	割合	面積 (ha)	割合	
市全体	1,911	39.6%	2,911	60.4%	4,822
志津学区	293	39.1%	457	60.9%	750

※面積は琵琶湖の面積は除いたものとしております。

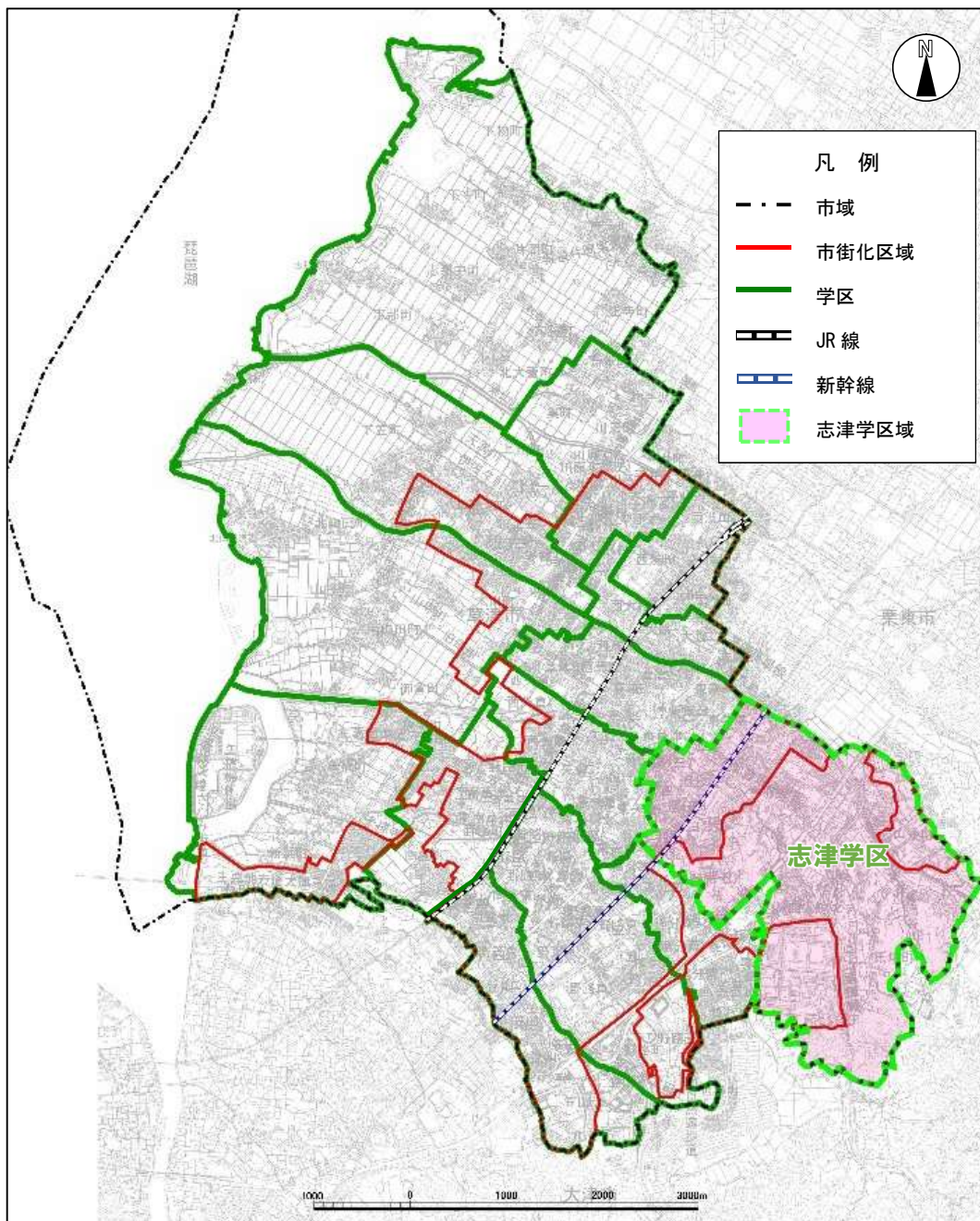


図-2. 志津学区の位置図

②人口

- ・表-2 に示すように、志津学区では平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で、学区全体では約 2,000 人、学区の市街化調整区域では約 500 人増加しており、その後も増加が進むと予測されています。学区の人口は、令和 22 年に学区全体で約 18,000 人、市街化調整区域に限ると約 4,300 人となることが予測されており、平成 27 年と比べ、学区全体で 26.9%、また、学区の市街化調整区域に限っても 17.2%の増加が見込まれています。

表-2. 人口の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

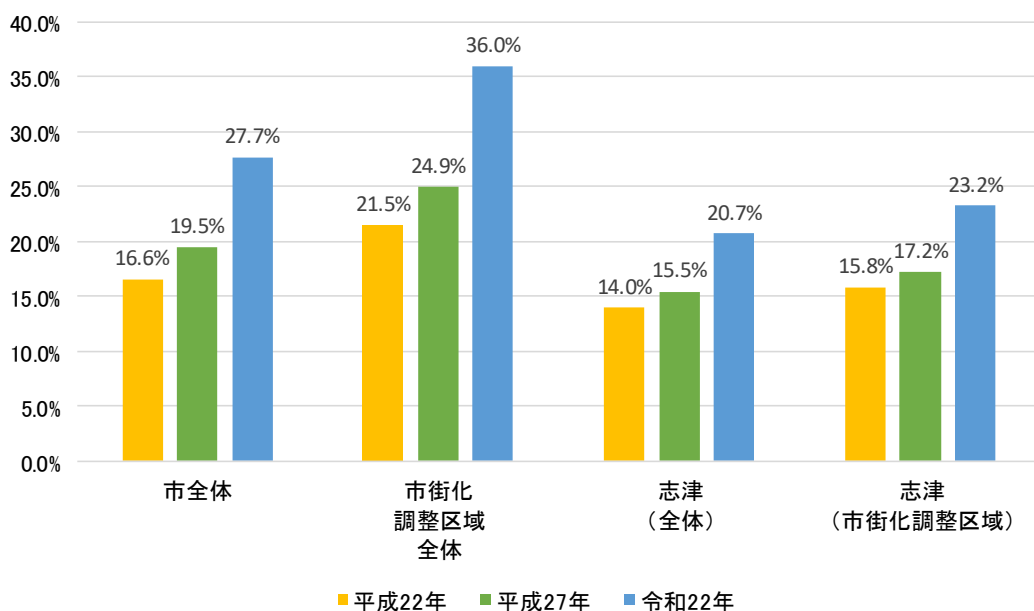
（数字の表記は千人単位としているため、実際の数値とは誤差が生じる）

	平成 22 年	平成 27 年		令和 22 年	
	人口（千人） （A）	人口（千人） （B）	増減率 （B/A）	人口（千人） （C）	増減率 （C/B）
市全体	130.9	137.2	4.8%	145.1	5.7%
市街化調整区域全体	25.0	26.5	6.0%	24.3	▲8.2%
志津学区（全体）	12.2	14.2	15.8%	18.0	26.9%
志津学区（市街化調整区域）	3.2	3.7	16.0%	4.3	17.2%

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

③高齢化率

- ・グラフ-1 に示すように、志津学区の高齢化率は平成 22 年から平成 27 年の 5 年間で、学区全体では約 1.5 ポイント、市街化調整区域では約 1.4 ポイントそれぞれ上昇し、15.5%と 17.2%になり、高齢化が進行していることがわかります。その後も高齢化が進むことが予測されており、令和 22 年には 20%を超えることが見込まれています。
- ・市全体あるいは市街化調整区域全体と比較すると、低い割合で高齢化が進むと予測されます。



グラフ-1. 高齢化率の現状と将来予測（平成 22 年、平成 27 年、令和 22 年）

出典：平成 22 年、平成 27 年は国勢調査、令和 22 年は立地適正化計画基礎調査による推計結果データの積み上げ

(2) 生活利便施設の状況（草津市版地域再生計画の再掲）

- 生活利便施設は都市機能施設のうち、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において生活サービス施設としている、医療施設・高齢者福祉施設・商業施設の3施設を対象としました。

対象施設	定義
医療施設	病院・診療所で内科または外科を有する施設
高齢者福祉施設	通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設
商業施設	1,000㎡以上の大型店舗

- 徒歩圏人口カバー率は、国土交通省の「都市構造の評価に関するハンドブック」において、徒歩圏を一般的な徒歩圏である800m（歩いて約10分ほど）（バス停は誘致距離を考慮し300m（歩いて約4分ほど））としており、対象施設の位置を中心とした徒歩圏内に存在する人口の総人口に占める割合としています。
- なお、徒歩圏人口カバー率は、町内会別ではなく町丁ごとの整理としており、人口については平成22年国勢調査データを使用しています。

①医療施設

- 図-3に示すように、志津学区における医療施設は2箇所あり、学区全体の徒歩圏人口カバー率は80.6%となっています。隣接する学区にある医療施設も含めて施設に近い追分町では100%、青地町では90%以上のカバー率となっている一方で、市街地中心部から離れた山寺町と馬場町では50%未満、岡本町では50%以上70%未満のカバー率となっています。

施設名称	住所	診療科目
しづ井上内科	草津市青地町481-3	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科
なかじま医院	草津市追分3-1-14	内科、循環器内科、外科、眼科

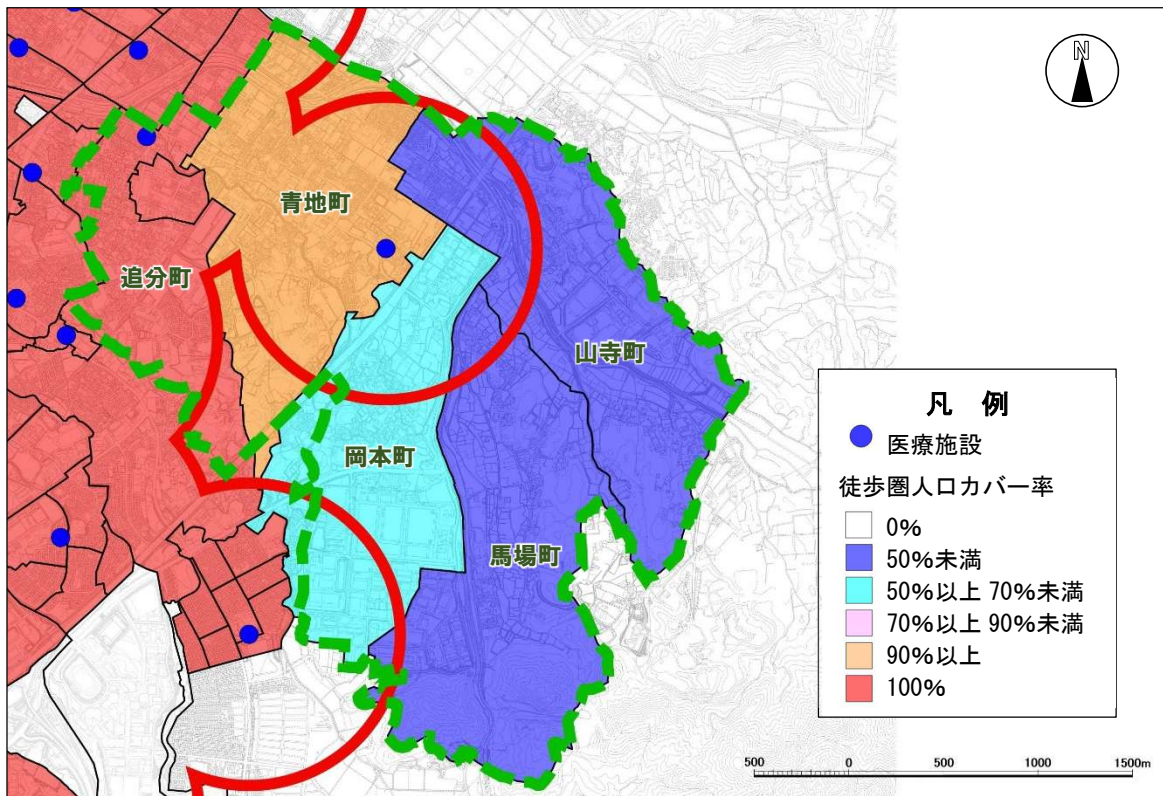


図-3. 徒歩圏人口カバー率 医療施設（データ整備年次 平成26年）

②高齢者福祉施設

・図-4 に示すように、志津学区における高齢者福祉施設は、公共介護施設が1箇所、通所系が4箇所、訪問系が2箇所あり、学区全体の徒歩圏人口カバー率は89.3%となっています。施設が地域内に立地する追分町と青地町では100%、山寺町では90%以上のカバー率となっている一方で、地域内に施設が立地しない岡本町と馬場町においては50%以上70%未満のカバー率となっています。

施設名称		住所
草津市在宅介護支援センター		草津市山寺町 837
通所系	デイサービスきらく	草津市追分 3-2-3
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部滋賀県済生会訪問看護ステーション	草津市青地町 600-1
	デイサービスセンターやすらぎ	草津市追分 6-16-5
	あおばなデイサービスセンター	草津市山寺町 441
訪問系	やすらぎステーション	草津市追分 6-16-5
	ヘルパーステーション青い鳥	草津市追分 6-19-6

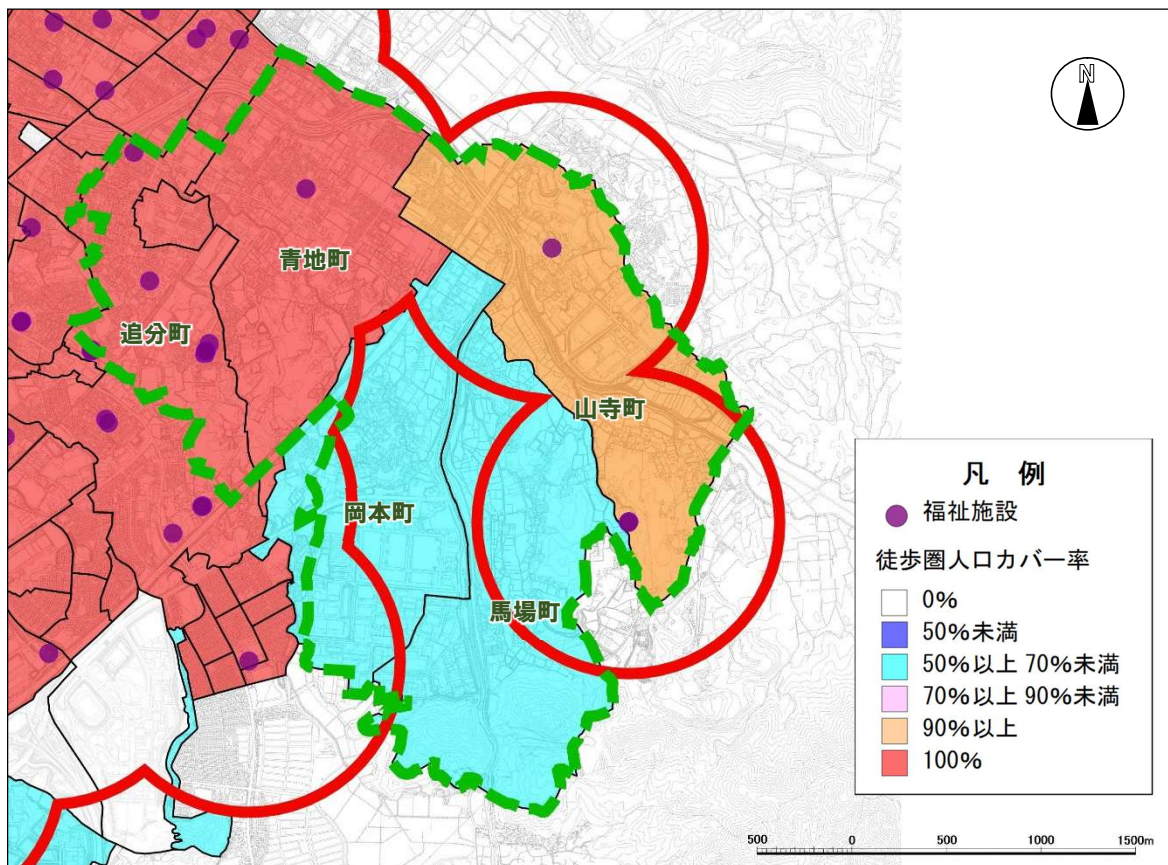


図-4. 徒歩圏人口カバー率 高齢者福祉施設
(データ整備年次 公共介護施設 平成 27 年 民間介護施設 平成 28 年)

③商業施設

- ・ 図-5 に示すように、志津学区における 1,000 m²以上の商業施設は、市街地中心部に近い 1 箇所のみですが、隣接する志津南学区の若草、追分南に商業施設が立地していることから、学区全体の徒歩圏人口カバー率は 60.4%となっています。市街地中心部に近い追分町では100%、青地町では70%以上90%未満のカバー率となっている一方で、市街地中心部から離れた岡本町では 50%未満のカバー率であり、特に山寺町と馬場町では徒歩圏内に 1,000 m²以上の商業施設が存在しない状況となっています。

施設名称	住所
フレンドマート志津東草津店	草津市追分 1-3-30

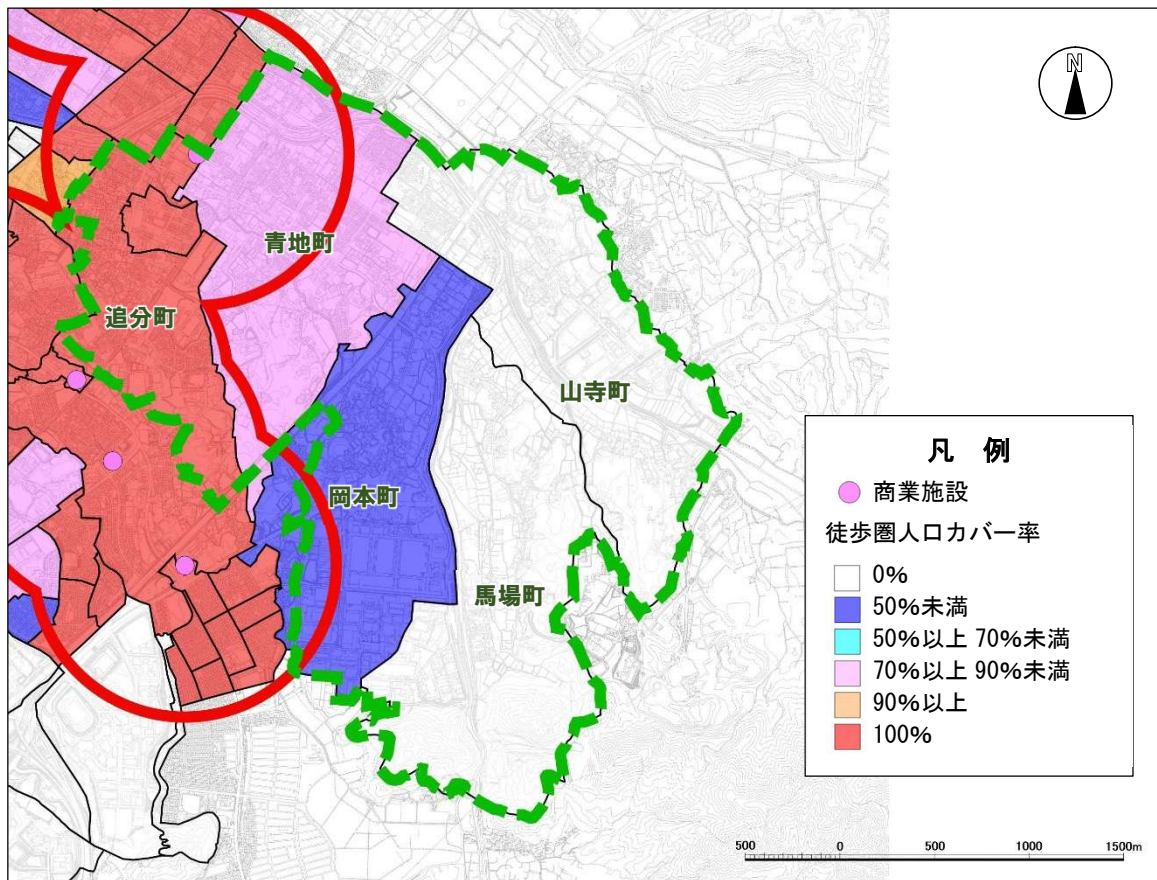


図-5. 徒歩圏人口カバー率 商業施設 (データ整備年次 平成 29 年)

(3) 公共交通の状況

・ 図-6 に示すように、志津学区の公共のバス路線が主要地方道大津能登川長浜線を通っており学区全体の基幹的公共交通^{※1}の徒歩圏人口カバー率は 38.0%となっています。地域内または近くにバス停がある岡本町では 70%以上 80%未満、青地町と追分町では 60%以上 70%未満のカバー率となっている一方で、地域のほとんどが徒歩圏外になる馬場町では 60%未満、山寺町では 0.0%のカバー率となっています。

こういった状況から、令和2年度よりデマンド型乗合タクシー「まめタク」の実証運行が始まっています。

なお、公共交通の環境に影響が見込まれる山手幹線の開通により、車両等の交通環境が大きく変化することが予想されます。

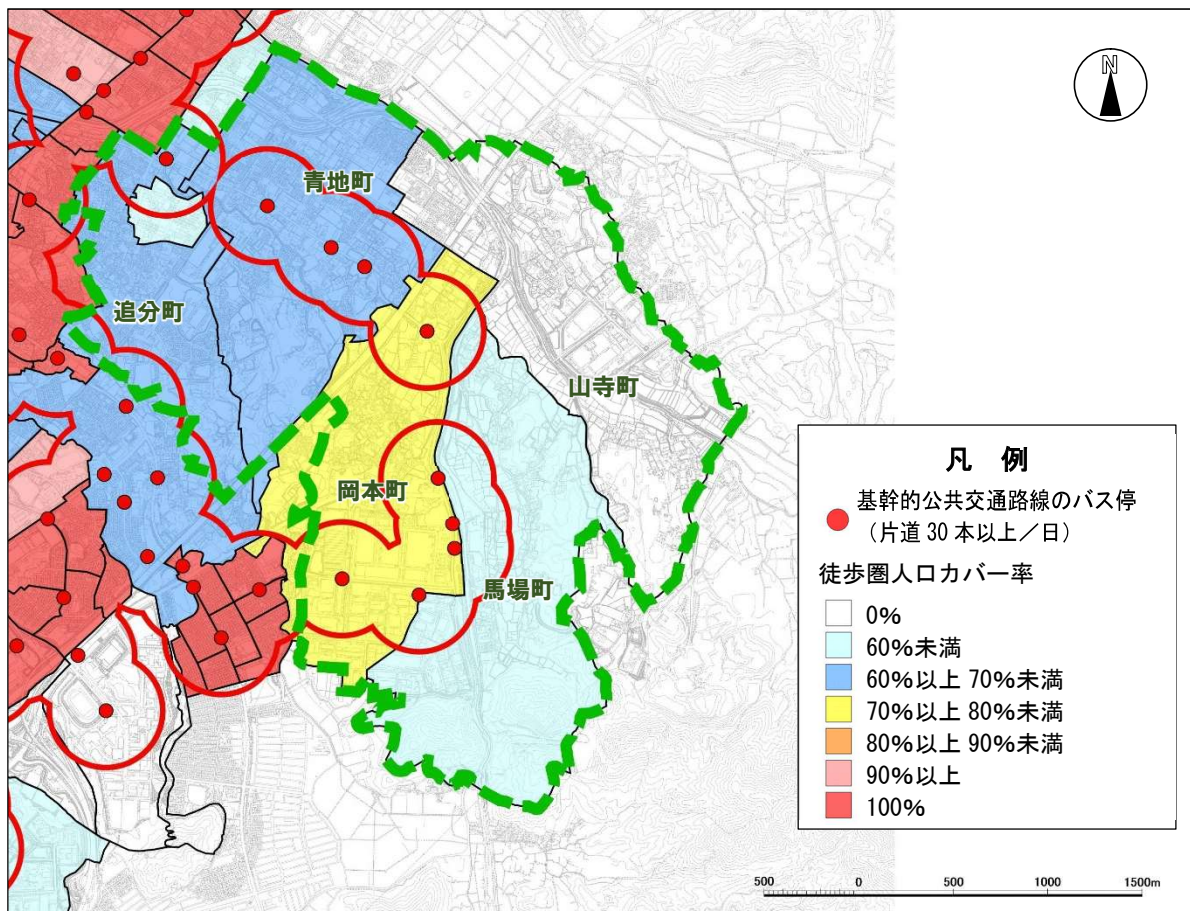


図-6. 徒歩圏人口カバー率 公共交通 (データ整備年次 平成 22 年)

※1 基幹的公共交通は 1 日に片道 30 本以上の運行頻度のバスとしています。

・志津学区には図-7、表-3 が示すような観光・農水産業の地域資源があります。

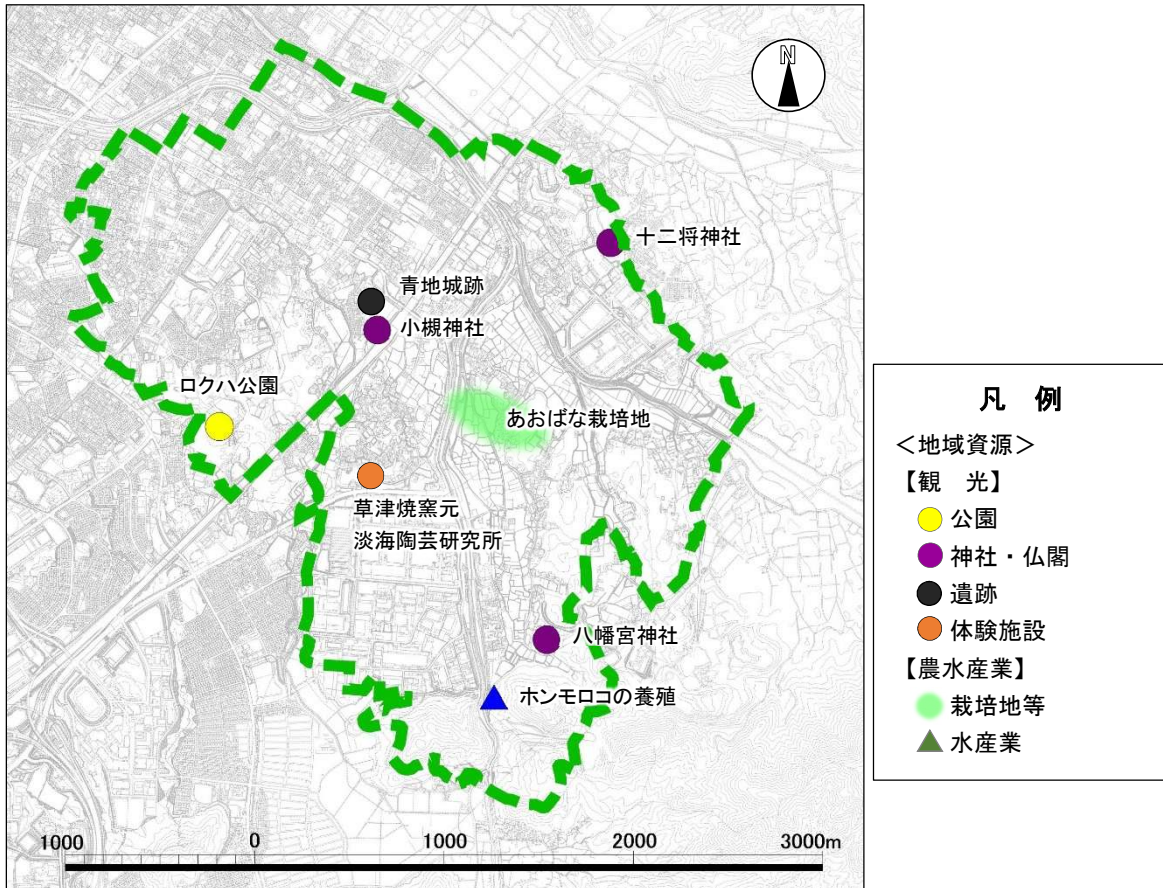


図-7. 志津学区の地域資源分布図（主なもの）

表-3. 志津学区の地域資源

地域資源			所在地	
区分	名称	概要		
観光	公園	ロクハ公園	プール、野外ステージ、多目的広場、デイキャンプの森、スポーツ広場、ジャブジャブ小川など、豊かな自然の中で四季を通じて楽しむことができる。	追分七丁目 11-2
	神社・仏閣等	小槻神社	2017年7月に木造男神坐像（彫刻）が、草津市有形文化財に指定されている。	青地町 873
		十二将神社	元亀争乱の兵火により焼失した後、貞享4年に村民が薬師堂（現祥光寺境内）を再建し、同時に再興された神社といわれる。	山寺町
		八幡宮神社	草津市岡本町の若宮神社、青地町の神明宮とともに小槻神社の境外社とされる。	馬場町
	遺跡	青地城跡	近江守護佐々木氏一族に連なる土豪青地氏の居城跡。かつての堀の跡である城池に昔の面影を残す。	青地町
農水産業	農業	あおばな栽培地	「あおばな」は、主に「青花紙」の原料に使用するために江戸時代から全国的にも草津だけで育てられて来た花で、草津市の花であり、草津ブランドに認証されている。あおばなを使った菓子やお茶などの開発・販売がされている。	馬場町
	水産業	ホンモロコの養殖	「ホンモロコ」は、琵琶湖の固有種であり、水環境の悪化や外来魚による生態系の乱れなどのため漁獲量が激減してきたことから、平成17年度より草津市が休耕田を活用したホンモロコ養殖に取り組み、今では生業による養殖が行われている。	馬場町

3. 志津学区のまちづくりの経緯

①まちづくり計画【まちづくり協議会】

- ・志津学区では、平成23年12月に「志津まちづくり協議会」を設立しました。協議会では、「ふれあい 支え合い 住み続けたいまち」を基本理念としたまちづくり計画を平成25年4月に3年間の計画期間として策定し、さらに平成28年4月にはワークショップ等で出された意見を反映した計画改訂を行い、計画期間を平成28年度～平成32年度の5年間として、まちづくりに取り組んできました。
- ・令和2年度の計画改定にあたっては、住民アンケートやワークショップを実施し、そこで出された意見を反映しつつ、普遍的なSDGsの17のゴールと55のイシュー（問題）を活用しています。また、基本理念を「ふれあい 支え合える 楽しいまち」とし、基本方針も新たに定め、計画期間を令和3年度～令和7年度の5年間として、まちづくりに取り組んでいきます。

基本理念	～ ふれあい 支え合える 楽しいまち ～
基本方針	・楽しい自治 コミュニティのあるまち
	・安全で安心なまち
	・支え合えるまち
	・学びのあるまち
	・文化が活性するまち
	・情報共有のあるまち
	・自然環境を活かせる楽しいまち

②志津学区まちづくりプラン（本計画）

- ・志津学区のまちづくり計画の改定に合わせ、まちづくり計画策定委員会において実施された検討会やワークショップでの内容を基に、本計画の具体的な施策を提示します。